

No. 001

隊員の健康管理・体力維持増進等に関する調査報告書

平成4年9月

国際協力事業団

青年海外協力隊事務局

534
98.8
JVH

青 広
J R
92-02

国際協力事業団

25904

[シリア]



平成2年度第1次隊/バレーボール/中嶋弘二隊員の指導風景



身体障害者のバスケットボール練習風景

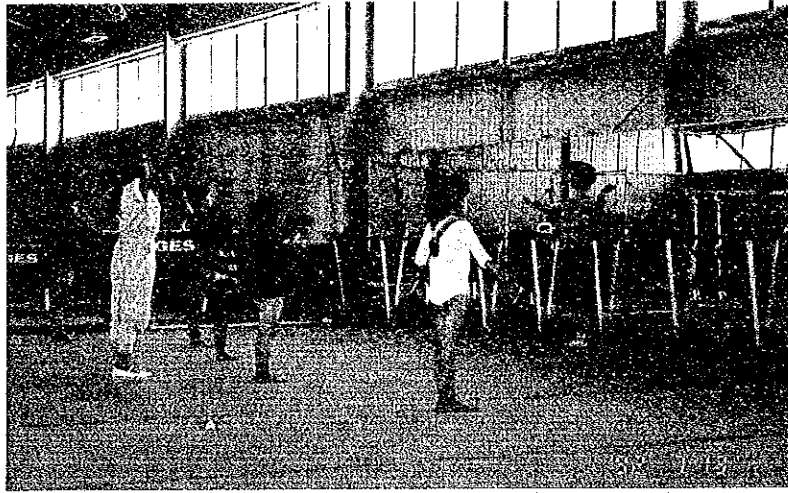


平成元年度第1次隊/水泳/五十嵐真理隊員による幼児クラスの指導風景

JICA LIBRARY

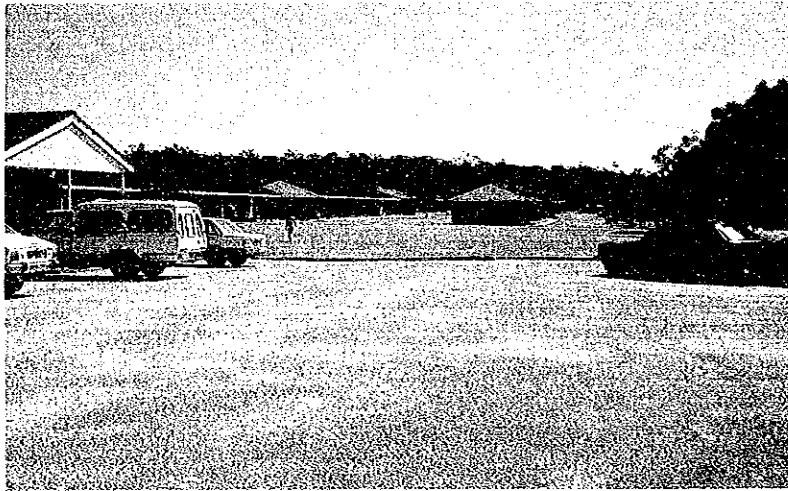


1111202[6]



平成3年度第1次隊/体操競技/深潟聡子隊員による指導風景

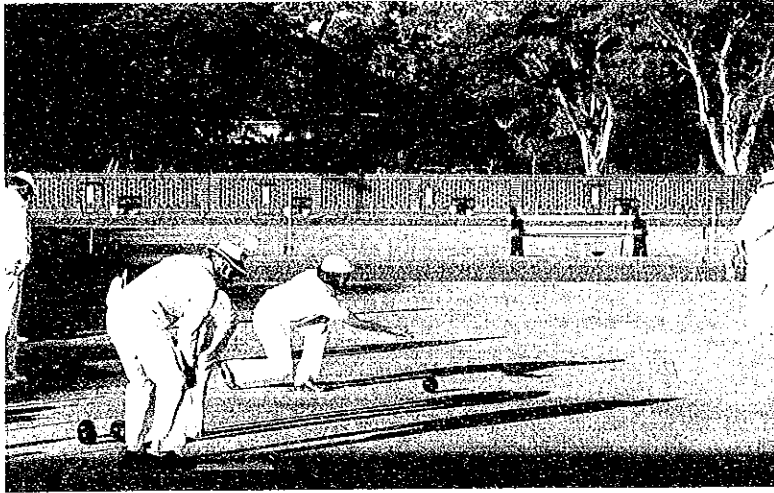
〔ジンバブエ〕



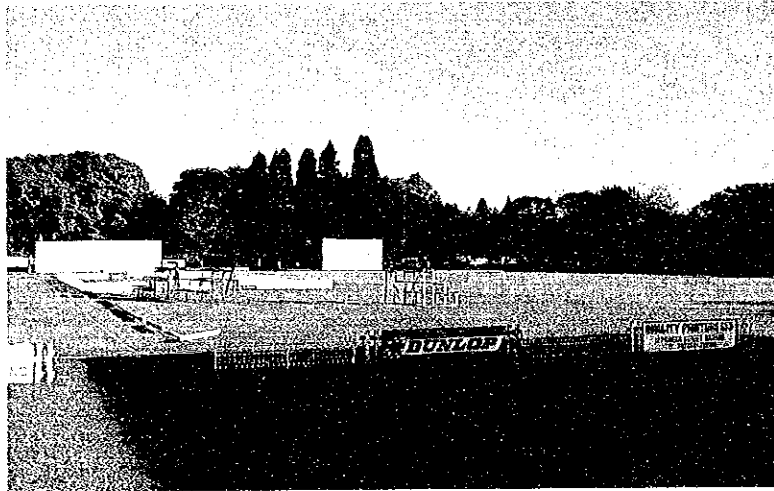
ロマグンディカレッジの校舎風景



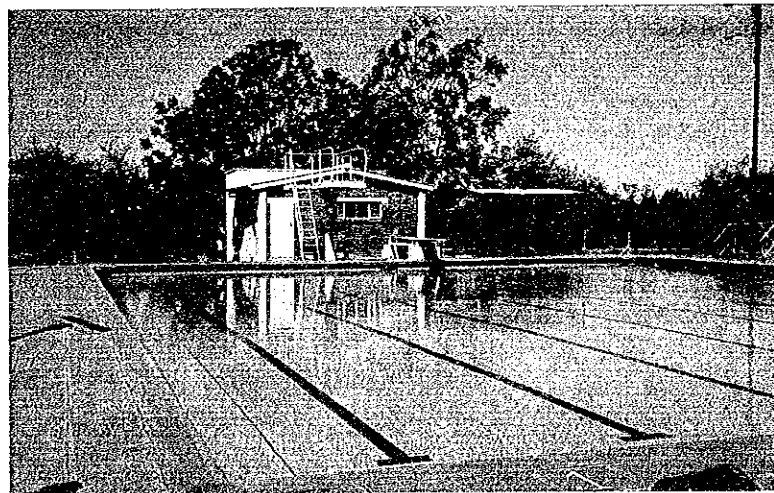
ロマグンディカレッジ VS セント・ジョンズのラグビー対校試合【於ロマグンディカレッジ】



アレキサンダースポーツクラブにて“ボールズ”を楽しむ白人



アレキサンダースポーツクラブのホッケー場



チノイ（ハラレより130km）にあるチノイ高校のプール



チノイ高校のバレーボール・コート（屋外）



チノイ高校のバスケットボール・コート（屋外）

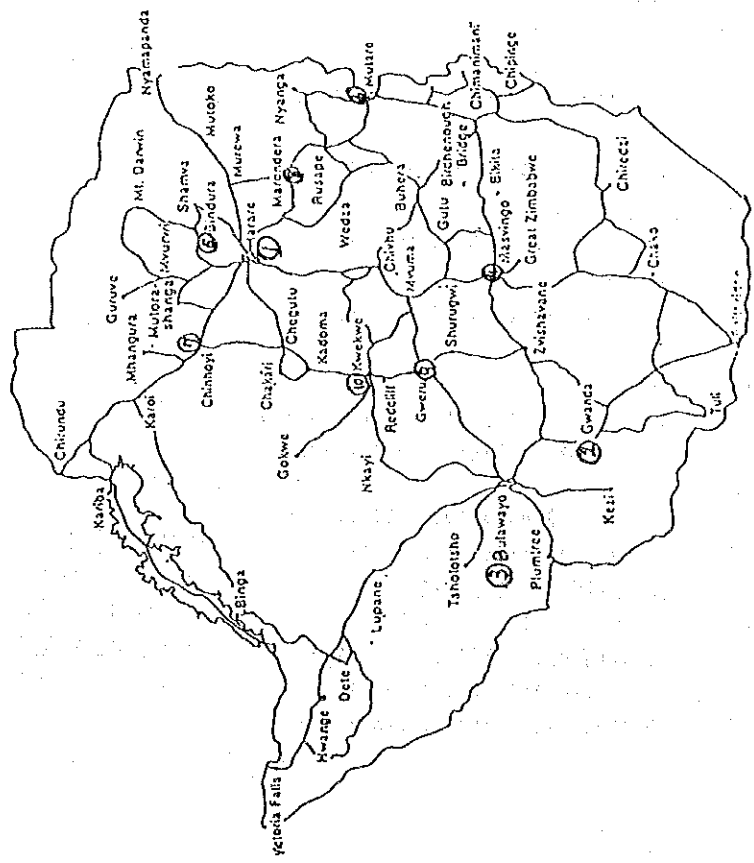


チノイ高校のホッケー場

ZIMBABWE 国 隊員西置圖

1992年09月01日現在
 隊員数 45名(内女性17名)
 調整員 稲田武司
 C. C. 佐々木 水
 郵便宛先 P.O. BOX 4060 HARARE, ZIMBABWE
 事務用電話 790635
 FAX 上と同じ

(派遣現況実録)
 昭和63年7月11日(於ハラレ)
 平成元年7月13日
 54名(内女性19名)
 45名(内女性17名)
 派遣開始
 派遣実録
 派遣中隊員数
 派遣中隊員配属先、職種、人数、隊員名

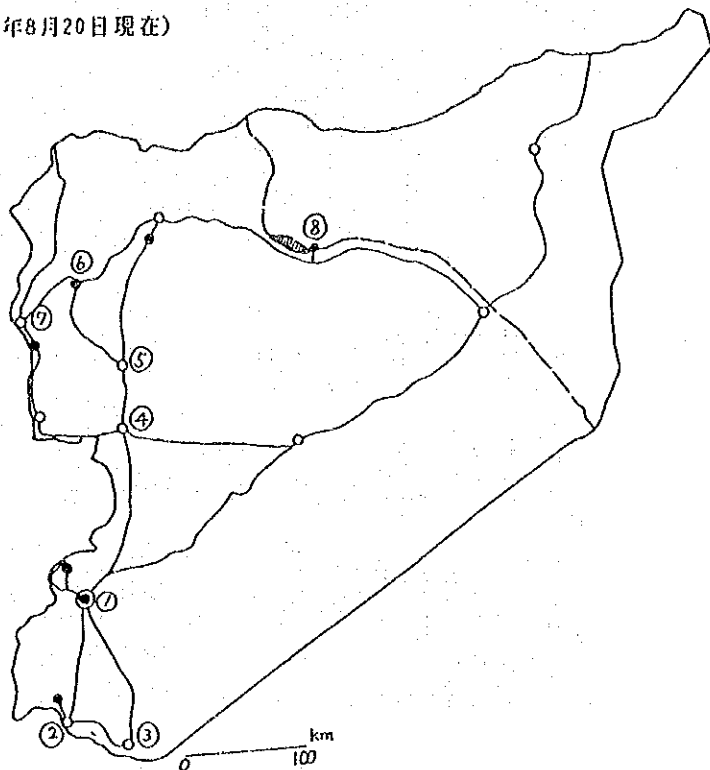


- ① HARARE (ハラレ) 22名
 - 特別 田中 儀 視聴機器 ~930813
 - 元/3 丸山正美 建築 ~930329
 - 02/2 菅谷 浄 電話線路 ~921201
 - 02/2 松永健司 電話線路 ~921201
 - 02/2 深津雅由 搬送 ~921201
 - 02/2 中村幸江 建築 ~921201
 - 02/3 熊谷晴美 電話線路 ~930406
 - 02/3 前田友泰 音楽 ~930406
 - 03/1 山下恒美 工作機械 ~930715
 - 03/1 重兼理苗 音楽 ~930715
 - 03/1 重 昌子 音楽 ~930715
 - 03/2 渡部光三 電話線路 ~931209
 - 03/2 藤澤英一 電話線路 ~931209
 - 03/2 舟橋和男 汎用パソコン ~931209
 - 03/3 寺角宏平 自動車整備 ~940406
 - 03/3 川岸 緑 建築 ~940406
 - 03/3 外岡真理子 建築 ~940713
 - 04/1 木村秀一 体育 ~940713
 - 04/1 村井洋介 野球 ~940713
 - 04/1 村上俊知 汎用パソコン ~940713
 - 04/1 鈴木香織 音楽 ~940713
- ② GWANDA (グワンダ) 1名
 - 元/2 木村国男 建築施工 ~921129
- ③ BULAWAYO (ブラフヨ) 6名
 - 02/3 三好直樹 建築 ~930406
 - 03/2 松本直久 音楽 ~931209
 - 03/2 木岡五月 音楽 ~931209
 - 03/2 宮 明子 音楽 ~931209
 - 03/2 長谷川久美 音楽 ~931209
 - 03/3 彦根京己 自動車整備 ~940406
- ④ MASVINGO (マシANGO) 2名
 - 02/2 井上利仁 建築施工 ~921201
 - 03/3 大森 実 建築 ~940406
- ⑤ BINDURA (ビンデッラ) 1名
 - 03/1 永井 幸 建築 ~930715
- ⑥ MUTARE (ムタレ) 4名
 - 03/1 辻本俊明 建築施工 ~930715
 - 03/3 山田伸一 自動車整備 ~940406
 - 04/1 佐藤香理 音楽 ~940713
 - 04/1 深田真理子 水泳 ~940713
- ⑦ CHINHYOI (チノイ) 5名
 - 03/2 小谷政典 建築施工 ~931209
 - 03/2 荒井久恵 音楽 ~931209
 - 03/3 斎藤貴子 音楽 ~940406
 - 04/1 光岡崇二 陸上 ~940713
 - 04/1 石元洋子 バスケット ~940713
- ⑧ MARONDERA (マロンデラ) 1名
 - 03/2 若尾明宏 建築施工 ~931209
- ⑨ GWERU (グエル) 2名
 - 03/3 日野口雅直 自動車整備 ~940406
 - 04/1 岩崎洋子 音楽 ~940713
- ⑩ KWEEKWE (クウェクウェ) 1名
 - 03/3 池田弘宏 自動車整備 ~940406

シリア隊員西記図

(1991年8月20日現在)

隊員数 29名(内女子6名)
 配属地 8都市村
 事務所長 松尾 邦義
 調整員(CC) 渡辺 祐輔



①ダマスカス

工業省工業試験研究所(ITRC)

- 1)小寺 繁文 (電気機器)(63-2)(64.1.4-4.1.3)
- 2)竹内 敏彦 (システムエンジニア)(63-2)(64.1.4-4.1.3)
- 3)堀之内 剛 (精密機器)(元-1)(元.7.12-4.1.11)
- 4)田口 信二 (溶接)(元-3)(2.3.30-4.3.29)
- 5)渋谷 寿志 (化学製品)(2-3)(3.4.9-5.4.8)

スポーツ連盟

- 6)足田 博之 (バドミントン)(63-2)(64.1.4-4.1.3)
- 7)五十嵐真理 (水泳)(元-1)(元.7.12-4.9.21)
- 8)中嶋 弘二 (バレーボール)(2-1)(2.7.13-4.7.12)
- 9)大塚 豊彦 (水球)(2-1)(2.7.13-4.7.12)
- 10)高橋なおみ (新体操)(2-1)(2.7.13-4.7.12)
- 11)吉本 恵子 (体育)(2-2)(2.12.4-4.12.3)
- 12)田野 元与 (体育)(3-1)(3.7.17-5.7.16)
- 13)深湯 聡子 (体操競技)(3-1)(3.7.17-5.7.16)

農業省ドゥマ農業試験場

- 14)戸田 伸夫 (食品加工)(元-2)(元.11.29-3.11.28)

総理府金両庁

- 15)小沼由美 (システムエンジニア)(2-3)(3.4.9-5.4.8)

②ダラー：スポーツ連盟

- 16)関口 洋平 (サッカー)(元-1)(元.7.12-4.3.11)

③スウェイダー：スポーツ連盟

- 17)工藤 裕文 (サッカー)(元-3)(2.3.30-4.3.29)

④ホムス：スポーツ連盟

- 18)中元 明品 (水泳)(元-3)(2.3.30-4.3.29)

⑤ハマ

農業省酪農公園本部

- 19)丸田 祐二 (システムエンジニア)(元-3)(2.3.30-4.3.29)
- 20)小玉 修平 (農業機械)(2-1)(2.7.13-4.7.12)

スポーツ連盟

- 21)清野 正洋 (バレーボール)(63-3)(元.3.31-3.9.30)
- 22)津嶋 義英 (ホッケー)(2-2)(2.12.4-4.12.3)

⑥ジュリン：農業省酪農公園ジュリン牧場

- 23)酒井山紀夫 (獣医)(2-1)(2.7.13-4.7.12)
- 24)大場 真人 (家畜飼育)(2-2)(2.12.4-4.12.3)
- 25)米丘 雄太 (獣医)(2-2)(2.12.4-4.12.3)
- 26)光家 隆 (家畜飼育)(3-1)(3.7.17-5.7.16)

①ダマスカス

②ダラー

③スウェイダー

④ホムス

⑤ハマ

⑥ジュリン

⑦ラクキア

⑧サウラ

⑦ラクキア：スポーツ連盟

- 27)太刀川良一 (バドミントン)(63-3)(元.3.31-4.3.30)
- 28)田村 浩之 (陸上競技)(2-1)(2.7.13-4.7.12)

⑧サウラ：農業省水産公園サウラ支所

- 29)細川 省三 (養殖)(元-1)(元.7.12-4.7.11)

目 次

I. 調査の概要

1. 調査の目的	1
2. 調査団の構成	1
3. 調査日程表	2
4. 主要面談者	3

II. 調査結果総括

1. 隊員の健康管理・体力維持増進に関すること	
(1) ジンバブエ	5
(2) シリア	8
2. スポーツ隊員に対する技術指導に関すること	
(1) ジンバブエ	10
(2) シリア	10
3. スポーツ関係の要請背景に関すること	
(1) ジンバブエ	12
(2) シリア	16
4. 派遣前訓練の評価	17

III. アンケート調査結果詳細

1. ジンバブエ	18
2. シリア	23

IV. 隊員に関する提言

1. 隊員の健康管理・体力維持増進に関すること	28
2. スポーツ隊員に関すること	28

I. 調査の概要

1. 調査の目的

協力隊訓練所においては協力隊事業発足以来、派遣前訓練の主眼点の1つとして「隊員候補生の健康管理・肉体的抵抗力を高めること」を挙げ訓練内容の充実を図ってきたが、派遣隊員数実績が1万人を突破、年間派遣隊員数が1,000人を越えようとする現在、任国における隊員活動を有意義且つ、効果的なものとする為に隊員の健康管理・体力維持増進を図ることはますます重要なものとなってきている。そこで昭和56年以来、体育関係の訓練所外部講師として隊員候補生の指導にあたり、平成3年度からは事務局の技術専門委員となられた青山敏彦氏（元日本体育大学教授）を団長に以下の目的により調査を実施した。

- ①健康管理・体力維持増進に関する派遣前訓練評価
- ②派遣前訓練における体育講座等に関する教材整備
- ③健康管理・体力維持増進に関する隊員への指導
- ④スポーツに対する技術指導
- ⑤スポーツ隊員要請に関する背景調査

2. 調査団の構成

- (1) 団長：青山 敏彦（事務局技術専門委員）
- (2) 団員：黒岩 康平（広尾訓練所訓練協力員）

3. 調査日程表

日 順	月 日	曜	場 所	便 名	時 間	備 考	移 動 及 び 業 務
第1日	7月 2日	木	東京発 ロンドン着	BA 006	11:00 15:35	B747	
第2日	3日	金	ロンドン発	DA 053	22:00	B747	稲田・佐々木両調整員と日程調整
第3日	4日	土	ハラレ着		08:50		
第4日	5日	日	ハラレ		午 前 午 後		
第5日	6日	月	ハラレ ハラレ発 グウェル ブラフヨ着		08:30 10:00 14:00 16:00 19:00		大使館表敬(一等書記官 斉藤氏) ハラレより約450Km のシリア第2の都市ブラフヨへ向けて出発 日野口隊員の配属先である車検場を訪問 ブラフヨ隊員6名からの聞き取り調査及び、懇談
第6日	7日	火	ブラフヨ発		10:00		ハラレに向けて出発
第7日	8日	水	ハラレ発 チノイ着 チノイ発		09:00 10:00		ハラレより約130Km のチノイに向けて出発 音楽隊員2名の配属先(学校)を訪問又、4/1次隊で配属されるバスケット ボールと野球の配属先を訪問 帰路
第8日	9日	木	ハラレ		午 後		市内の各スポーツクラブを見学
第9日	10日	金	ハラレ ハラレ発		午 前 16:00		3名の音楽隊員の配属先及び、車検場を訪問 稲田・佐々木両調整員との最終ミーティング及び、懇談
第10日	11日	土	フランクフルト着 フランクフルト発 ダマスカス着	UM736 LH668	21:15 07:35 13:50 19:10	B767 Airbus	2時間の遅延の為、実際は 21:10の到着。その後、松尾所長・渡辺調整員と 日程調整
第11日	12日	日	ダマスカス		午前・午後		市内の6名の体育隊員の配属先を訪問
第12日	13日	月	ダマスカス		午前・午後 19:00		前日に続き、市内の体育隊員の配属先及び、JICAプロジェクトの行われている 国立計測標準研究所を訪問。なお、同場所にはSEと日本語教師の隊員も配属 されている 隊員連絡所での帰国及び、新隊員の歓送迎会に参加
第13日	14日	火	ダマスカス		10:00 19:00		市内ホテルで開催された隊員総会に出席。26名の隊員からの聞き取り調査 実施 松尾所長・渡辺調整員との最終ミーティング及び、懇談
第14日	15日	水	ダマスカス発 フランクフルト着	LH669	07:25 11:00	Airbus	
第15日	16日	木	フランクフルト発	LH710	17:00	B747	
第16日	17日	金	東京着		11:15		

便 名
BA:British Airways
UM:Air Zimbabwe
LH:Lufthansa

4. 主要面談者

(1) ジンバブエ

	稲田 武司	協力隊調整員
	佐々木法水	協力隊調整員
任地：ハラレ	丸山 正美	(01/3・建築)
	菅谷 浄	(02/2・電話線路)
	松永 健司	(02/2・電話線路)
	深津 雅由	(02/2・搬送)
	松村 幸江	(02/2・建築)
	中田 一昭	(02/3・電話線路)
	熊谷 晴美	(02/3・音楽)
	前田 友泰	(03/1・工作機械)
	山下 直美	(03/1・音楽)
	重兼 佳苗	(03/1・音楽)
	量 昌子	(03/1・音楽)
	渡部 光三	(03/2・電話線路)
	藤澤 英二	(03/1・電話線路)
	舟橋 和男	(03/2・システムエンジニア)
	寺角 宏平	(03/3・自動車整備)
	川岸 緑	(03/3・建築)
	外岡真理子	(03/3・建築)
任地：ブラワヨ	三好 直樹	(02/3・建築)
	松本 直久	(03/2・音楽)
	木岡 五月	(03/2・音楽)
	宮 明子	(03/2・音楽)
	長谷川久美	(03/2・音楽)
	彦根 克己	(03/3・自動車整備)
任地：ビンデウラ	永井 幸	(03/1・建築)
任地：ムタレ	辻本 俊明	(03/1・建築施工)
	山田 伸一	(03/3・自動車整備)
任地：チノイ	小谷 政典	(03/2・建築施工)
	荒井 久恵	(03/2・音楽)
	斉藤 貴子	(03/3・音楽)
任地：グウェル	日野口雅宣	(03/3・自動車整備)
任地未定	池田 敏宏	(03/3・自動車整備)

(2) シリア	松尾 邦義	J I C A事務所所長
	渡辺 祐輔	協力隊調整員
任地：ダマスカス	五十嵐真理	(0 1 / 1 ・水泳)
	中嶋 弘二	(0 2 / 1 ・バレーボール)
	大塚 豊彦	(0 2 / 1 ・水泳)
	高橋なおみ	(0 2 / 1 ・体操競技)
	吉本 恵子	(0 2 / 2 ・体操)
	田野 元与	(0 3 / 1 ・体育)
	深瀬 聡子	(0 3 / 1 ・体操競技)
	小沼真由美	(0 2 / 3 ・S E)
	小田 恵子	(0 3 / 3 ・日本語教師)
	津嶋 義英	(0 2 / 2 ・ボクシング)
任地：スウィダ	荒井 信行	(0 3 / 3 ・陸上競技)
任地：ハマ	北村 幸一	(シニア隊員・家畜飼育)
任地：ジュリオン	大場 真人	(0 2 / 2 ・家畜飼育)
	米丘 雄太	(0 2 / 2 ・獣医師)
	向野 逸郎	(0 3 / 2 ・獣医師)
任地：ラタキア	太刀川良一	(6 3 / 3 ・バスケットボール)
任地：タウラ	細川 省三	(0 1 / 1 ・養殖)
任地：マスカネ	家光 隆	(0 3 / 1 ・家畜飼育)
	古元 寿	(0 3 / 1 ・家畜飼育)
	片山 正敏	(0 3 / 3 ・家畜飼育)

II. 調査結果報告

1. 隊員の健康管理・体力維持増進に関すること

(1) ジンバブエ

首都ハラレ、第2の都市ブラワヨ、それに地方都市チノイに赴任している隊員には直接面談し、健康状態を聴き、合わせて数人の隊員の宿舎を訪れ居住環境実態をも調査した。又、事前に調査をしたアンケートを基礎資料とし、訪問できなかった地方隊員の生活実態をも間接調査で補い調査した。

その結果を以下の項目に分類し、まとめてみる。

①住居について

2つのタイプに分かれている。教育関係と郵電公社関係の隊員は寮、その他は一般のアパートメントに住居を持ち、明確に区分されていた。

しかし、いずれも個有面積は広く生活・治安の両面とも良く、問題とされる点はない。ために、健康障害となるような要因は基本的にないが訪れた時が冬であり、初年度の隊員はその寒さに慣れず又、暖房の用意もなく風邪をひく隊員がでていたのは、今後のガイダンスとして注意すべき点であった。更に健康との繋りではないが、住居問題として都市も地方も住宅難でアパートを確保するには大きな困難を伴う点も指摘しておきたい。

②勤務について

現場型・事務型に分けられるが、事務型の隊員もほとんどが現場に出て肉体的労働に従事しており、加えて通勤に自転車が使われており、それも1日3～5 Kmが平均的距離となっている。この両者を合わせてみると重労働に従事していることになり、特に運動を取り入れなくても肉体的消費量は高いと予測される。

③食事と栄養について

住居の条件と相まって給食型と自炊型とに分かれ、給食型は現地食型自炊型は日本食型になっている。いずれも大きな問題とされる点はないが一点、給食型では各食事の栄養価の高さと共に、食事数（間食）が多い為過食になりがちであり、特に一部の女性隊員は肥満の悩みを訴えている。野菜・果物類が豊富であることから、気配りによっては材料は十分調達できるとのことある。

④疾病について

赴任当初の下痢と風邪程度であり、現在隊員が配属されている地区においては、マラリアの危険もなく、大きな問題はない。精神面でも各自がストレス発散を工夫し実践しており、要注意なる隊員は一名も存在していない。但し、アフリカ全体の問題であるやに受け取れるのは、AIDSの問題であり、出発前に指導は受けてはいるものの、現地での不安を除くよい手段があればガイダンスの必要がある。

⑤睡眠について

全体として6～8時間で特に問題とすべき点はないが、日中の勤務時間が7時～13時が主たる体制であり、加えて地方では夜、停電も多く就業時間が早くなり日本の生活状況から一変して早寝早起き型に変わり、健康維持には大きな役割を果たしている。

⑥運動への参加について

学校勤務者は授業が13時終了後、生徒の自主活動の中で週2度は運動と取り組んでいる。他の職場の隊員も地域のスポーツクラブや職場の同僚達と共にスポーツを行う機会が多く、週2～3回は積極的に運動を実施している隊員がほぼ全員である。ハラレの一部の隊員は毎週金曜日には、所長宅でテニス大会を催し、意見交換と健康管理に役立てている。隊員各自が健康の意をよく理解し、積極的に実践している姿が受け取れた。

加えて、自然環境・生活環境に恵まれており、特に問題とすべき点は今回の調査範囲ではなかった。

(2) シリア

隊員総会において懇談による聞き取りを行い、その結果を以下の項目に分類し、まとめてみる。

①住居について

学校の提供する宿舎で生活をする一名を除いては、全員が自らの宿舎にて生活をしており、広さ・生活上の点を含め概ねよい環境にて過ごしている。

しかし、宿舎を得るには都市・地方を問わず住宅難であり、求めるには苦勞を伴うとのことである。

②勤務について

都市部・地方共に勤務の時間帯に大きな差はなく、8時～14時で勤務は終了し又、夏期・冬期も一律に勤務時間は守られているとのことである。

作業量は体育・酪農隊員は中程度の肉体労働を行っているものの、身体的疲労を伴う程ではない。他の職種の隊員においては事務型であり、軽作業程度の範囲である。

③食事と栄養について

自炊をしている隊員が多く主食・副食共に入手が容易であり、好みにより日本食を中心に工夫し、種々の料理を作ることができる。又、全員健康に留意し、ほとんど問題はなく肥満・痩せ過ぎ等の身体的変化も報告されなかった。

④疾病について

現隊員中、入院を伴う発病はなく風邪・腹痛程度であり、問題は起きてはいない。又、特に心配される感染症もないが唯一、ブルセラ病に注意を要するとのことであった。現在までに患った者はいない。

⑤睡眠について

先に述べた勤務時間との関係と現地の生活習慣の影響が大きく、日本との生活とあまり変化なく、夜型の6時間前後の睡眠時間が多いのであるが職種上、酪農隊員は朝型になり同様に6時間前後の睡眠時間を報告していた。しかし、共に昼寝をとる者が多く2～3時間の昼寝を習慣化し休息時間を補っている。但し、水泳隊員は夏期の日中、休息がとれず過労になりがちであるが、冬期は時間の余裕ができ大きなサイクルで休息を調整しているとの報告もあった。

⑥運動への参加について

都市部においては、レクリエーション活動としてスポーツを実施しているが、積極的参加により自らの体力管理をすすめる為に運動を実践するには至っていない。しかし、ダマスカスにおいては中嶋隊員・渡辺調整員の指導により、隊員相互間でスポーツ大会を催し消極的になりがちな行動を補っている。都市部でもスポーツは一部のエリート占有物の感があり隊員が容易に親しむ環境にはないようである。地方においては、体力作りの為のスポーツ等は浸透しておらず、ジョギング等を行ってれば、変人扱いを受ける程だとのことであるが、自然を生かし散歩やサイクリングで

各自の運動不足を解消しているとの報告もあった。

2. スポーツ隊員に対する技術指導に関すること

(1) ジンバブエ

同国には、平成4年度第1次隊より体育隊員が新規派遣される為、調査時には該当者なし。

(2) シリア

①平成2年度第1次隊／バレーボール／中嶋 弘二隊員のケース（写真－1）

現調整員の渡辺氏の後任として、女子ナショナルチームの強化にあたっては、選手層が薄くその上、女性がスポーツに専念する環境がまだできあがっておらず素質のある選手の発掘がしにくく、練習時間も年間を通じ計画的に進めるのが困難である。アラブ地域ではかなりの位置までいくのであるが、世界への挑戦には今一步及ばぬところである。しかし、国内には素質のある人材が多くおり、バレーボールが全体に広がることにより優秀な選手が集まり、今後大きな期待を持つことができるという話であった。それ故に今は、女性スポーツとしてバレーボールを定着させること、加えて勝つ喜びを選手達に知らしめ計画的・組織的にバレーボール活動を進める環境作りをすることであると語っていた。そんな成果が現れ始めており、選手達とのコミュニケーションもよく、激しい練習にもよくついて汗を流していた。

②平成2年度第2次隊／体育／吉本 恵子隊員のケース（写真－2）

身障者のスポーツ指導という特殊なケースと考えられるが、身体障害者の社会復帰を兼ねたスポーツ指導に携わり、1ヶ月程前に車椅子を購入し車椅子バスケットボールチームを作り、活動が軌道に乗り始めた。

技術的な指導やルール等種々の問題をよく解決し、当日13～15名を把握し、全員を意欲を持って指導していた。ハンディキャップのある人は消極的になりがちであるが、我々が訪問した時にはあまりの明るさと積極さに、シリアの人はこんなに明るいのかと思う程であった。しかし、後に吉本隊員から聴かされたことによると、その印象は誤りであり特にシリアでは身障者に対して冷たく、一般に暗い人生を送っている人が多いと言うことであった。その点、この活動に参加している人達は、日々明るさを得てきており又、参加する人も回を重ねるごとに増えてきているとの報告であった。

今後はこの国の中で、大きな広がりになっていくのではと期待される活動であった。報道関係者も注目し、テレビでも放映され大きな反響を呼んだと報告も受けた。

3. スポーツ関係の要請背景に関すること

(1) ジンバブエ

プライマリー／セカンダリースクールを中心に、加えてスポーツクラブを視察した。まず学校であるが、公立・私立学校共に基本的な違いがなかった。そこで例として代表的な2校を挙げておく。

① マーブルレイン女子公立高等学校

生徒数約700名で寮を有し、敷地面積約7万平米である。運動施設としては、陸上競技場(400mトラック)／コートボール場(6面)／ホッケー場(3面)／テニスコート(9面)／バスケットコート(2面)／プール(20×15m)を備え、屋外は芝生になっている。

又、ユーカリの木の中に配置されており、女子校の静かな環境が整えられている。体育・スポーツ活動は正課時(7:30～13:00)には行われず、終了後に週2～3回の割合で各自得意のスポーツに参加をし実践されている為に、身体的な発育発達を考慮した活動は行われずにゲームを中心にした展開に終始しているのが現状である。人気のあるスポーツはコートボールである。

平成3年度第1次隊／音楽／量 昌子隊員の報告によると、運動会開催時にかなりの生徒が倒れたとのことである。原因はよく解らないが今後の問題点の一つとなるかも知れない。

②私立ロマグンディカレッジ【初等・中等一貫】（写真－５・６）

生徒数約１０００名で寮を有し、敷地面積３３万平米以上である。

運動施設としては、ラグビー場（３面）／サッカー場（３面）／テニスコート（１０面）／プール（２５×２０ｍ）／ホッケー場（１０面）乗馬コース（２Km）・体育館（現在建設中）を備え、グラウンドはすべて芝生となっている。体育・スポーツ活動は前出の公立高校と同様である。

又、この時間を利用して対抗試合等も活発に行われ、男子に人気のあるのはラグビー・サッカー、女子ではコートボール・グラウンドホッケー等が盛んである。計画的な基礎トレーニングや技術指導等の必要性が起こってきており、経験重視のゲーム指導ではなく、専門的なコーチの存在が各種目において必要とされる感を持った。しかし、今現在学校のカリキュラムとして体育・スポーツの必要が生じてくるとは考えにくい。

③アレキサンダースポーツクラブ【私設】（写真－７・８）

メンバー制クラブで敷地面積５万５千平米である。運動施設としてはスカッシュ場（２面・屋内）／ホール兼柔道場（１面）／ラグビー場（２面）／サッカー場（２面）／ホッケー場（２面）／テニスコート（８面）／ボールス場（１００×５０ｍ）／クリケット場（１００×１００ｍ）を備え、屋外は芝生になっている。

又、ユーカリの木の中に囲まれており英国的なスポーツクラブである。女子ホッケーチームがオリンピックへも出場した名門クラブであり現在は佐々木調整員が柔道指導を行っている所でもある。

各種の活動がメンバーを中心として活発に行われており、メンバーの

趣味に合わせたものであり、自由時間を生かしたクラブライフを楽しむ場である。この点からスポーツを見ると、ジンバブエの上流社会の占有物とは言え、スポーツ先進国の観が強い。

しかし、これらクラブの中でも他の一面を持っている。それはクラブが強い選手を持ち、有名でありたいとする点ある。それゆえ強い選手を持つと共に科学的に理論的・系統的なコーチを求めているのである。今後、この分野における指導者の要請も起こってくるものと予想される。

以上3例を記したが、現在体育隊員が存在せず（平成4年度第1次隊より）明確な活動は把握できなかった。

しかし、学校体育の中では前述の通り青少年の発育・発達を基盤とした体育科教育は行われていないものの、教育機関である学校には豊富な体育施設が十分に整えられており、今後体位・体力等の比較や評価が進み発育・発達に体育科教育の必要が認識されれば、体育スポーツのあり方も大きく変革するものであろう。又、地域のスポーツ施設等においても生活水準が向上すれば、一般の人が多く参加することが予想され、一度に指導者不足が起こってくると考えられる。そこで今、体育スポーツの指導者養成をも考えられよう。

もう一点、ジンバブエの国民は潜在的に優秀な体格・体力を有しておりスポーツ適性を持っていると推測でき、その端緒を会員制スポーツクラブ等で上手に引き出すことによって、世界的な選手を輩出することができよう。それを基にし、国の名声を高めることも今では可能ある。

それには科学的に実践指導が出来るコーチが不可欠である。この分野にも
隊員の要請が出てくるものと思われる。

(2) シリア

12名の体育隊員がスポーツ選手の養成と強化に協力をし、その底辺を支える仕事に携わっている。その内特殊な領域として、身体障害者スポーツ指導と社会復帰の領域を担当する。しかし、学校教育の中には1名も配属されておらず体育スポーツの位置付けは未だ不明確なところが多く、ダマスカスに限って言えば各学校には体育館はあるがグラウンドは全くなく、コンクリートやタイル張りの中庭を有する程度である。体育の時間としては、義務教育期間では週1時間設けられているものの、ボールゲームで遊ぶ程度のものである。各隊員の意見ではこの学校教育の位置付けが明確でない為に選手養成が遅れているとのことであった。一方、体育スポーツへの関心はかなり強く、機会があれば多くの人に参加を希望しているが、未だ金持ち中心に運営されており一般化には時間を要する。その上、女性は宗教的制約もあり、子供時代(15歳未満)は好んでスポーツに親しむが、大人になると遠のいていく。体格・体力について観察すれば、発育発達は日本よりやや早期現象にあり、特に女性においては15歳前にほぼ成人近くの身長に到達し、運動適性もかなり高いように伺えた。男性も筋肉質でバランスのとれた体格をしており今後、スポーツの普及が進めばさらに多くの世界的選手が輩出されることが予測される。現在盛んに行われているスポーツはバスケットボール・バレーボール・ハンドボール(女性)・ボクシングサッカー(男性)・ライフル・自転車競技・乗馬・水泳・水球等である。

4. 派遣前訓練の評価

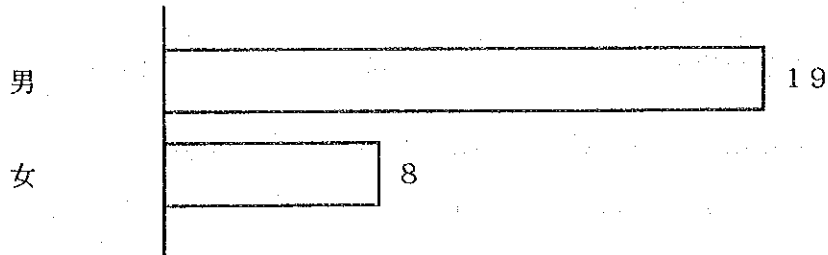
77日間の訓練期間中に健康管理・体力維持向上に関するプログラムは幾つ組まれているが、全員が納得しそれなりの評価をするのは現状では難しいものがあると思われる。各隊員の取り組む姿勢によってもそれは変わると思われるし、施設的なことや実施方法によっても影響がある。社会に出て働いていた人にしてみれば普段はそんなに運動をする機会もなく、生活も不規則な場合が多い。そんな生活から訓練に入り、朝のジョギングを始め、体を使う機会が多くなり最初は辛いものがあったようである。しかし、任国へ赴任してから帰国するまでの間、誰も健康に関して心配あるいは体を鍛えてそれに備えようとする。そのきっかけにこの訓練期間中のプログラムが一役買っているケースも少なくないようである。ただ、やはり個人の能力等に対応した個別プログラミングが必要との意見が出ていた。

Ⅲ. アンケート調査結果詳細

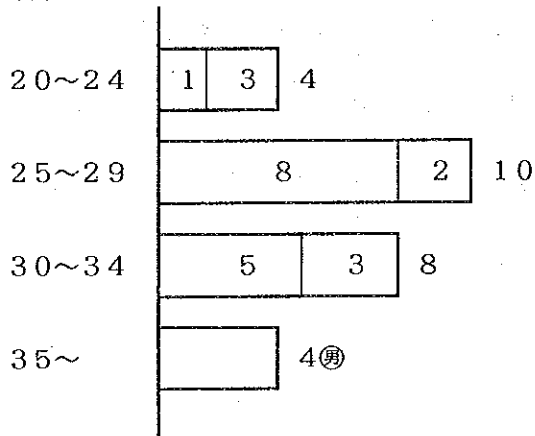
※横棒グラフ中の前数は「男」、後数は「女」を表す

1. ジンバブエ

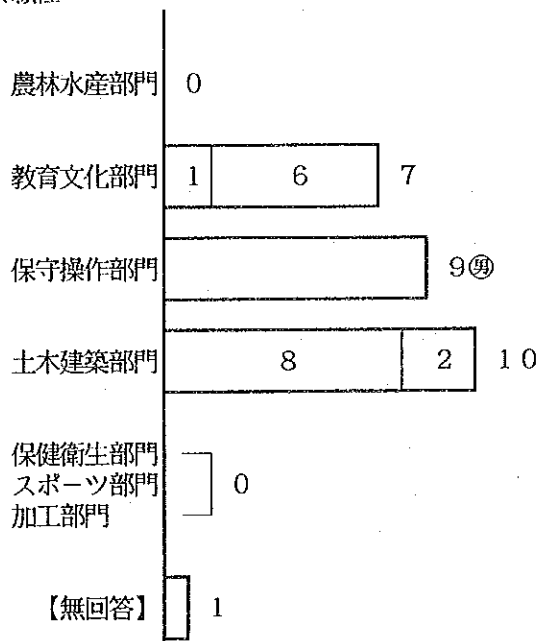
★性



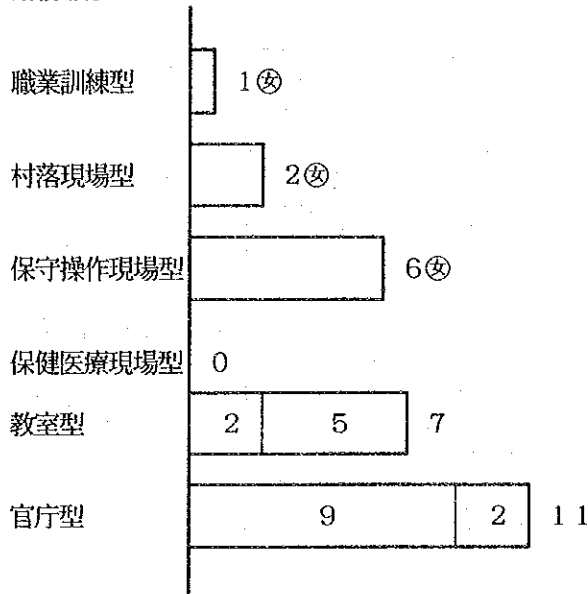
★年齢



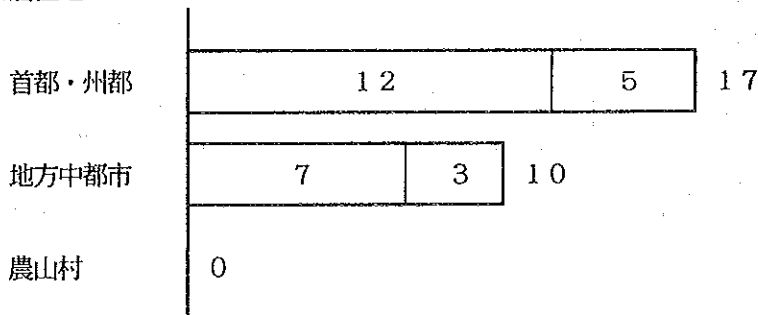
★職種



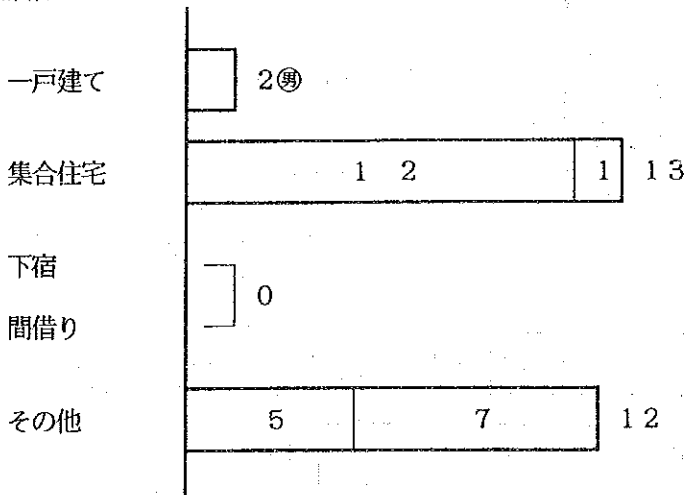
★勤務形態



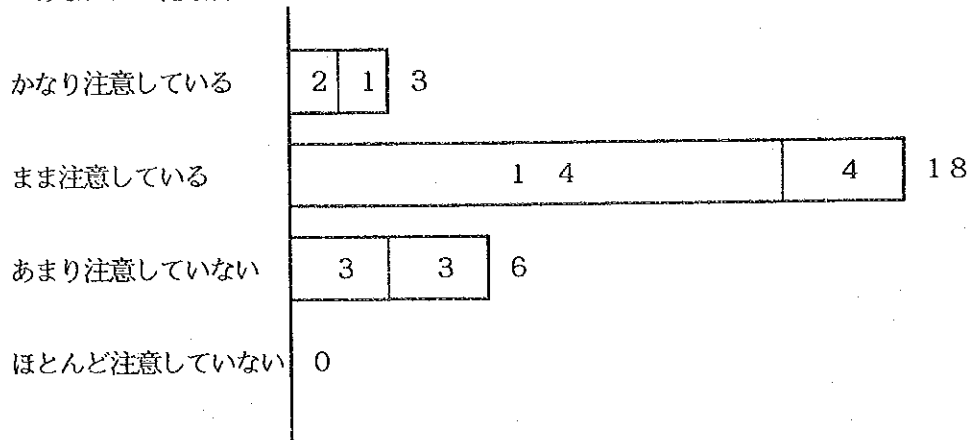
★居住地



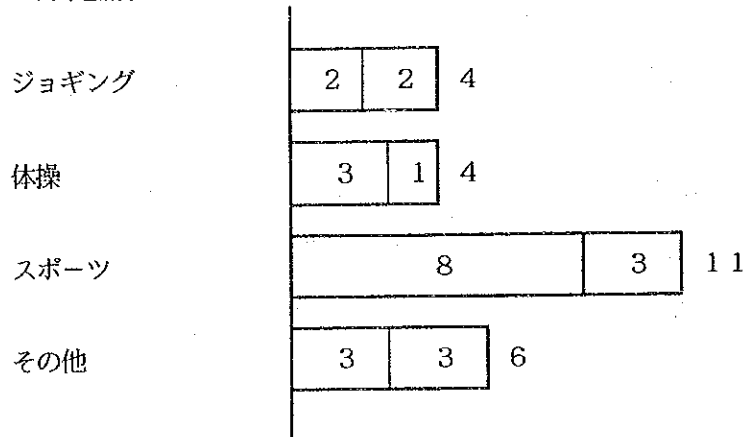
★居住型



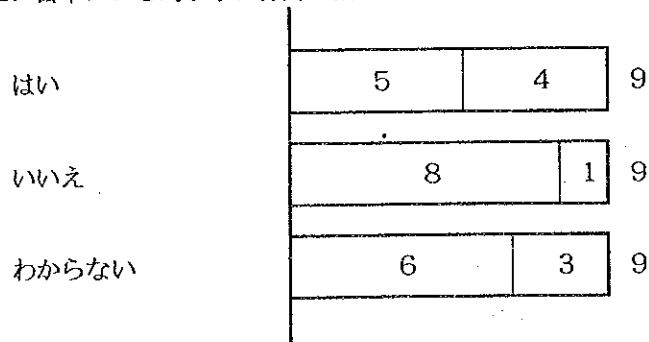
I. あなたは、健康管理に注意を払っていると思いますか？



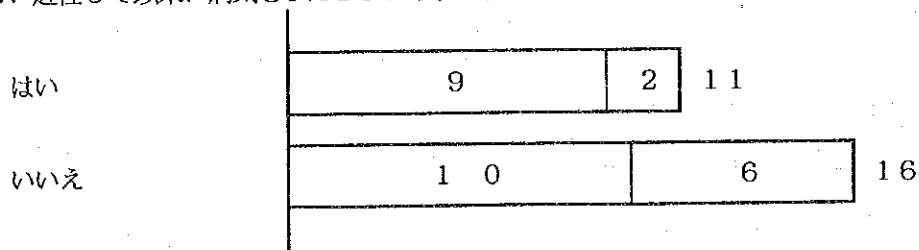
II. 日常生活において、体力維持増進のために何かしていますか？



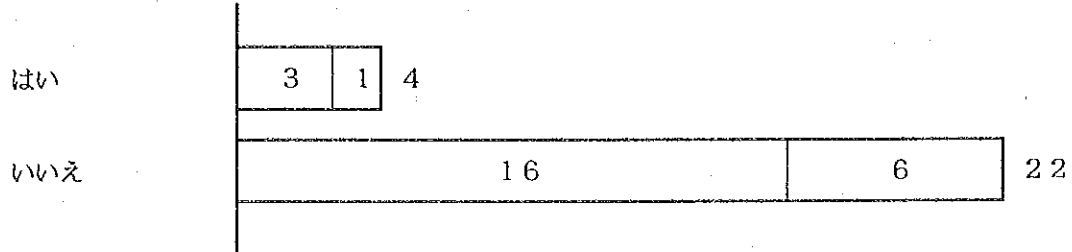
III. 日本にいる時より、体力が落ちたと感じますか？



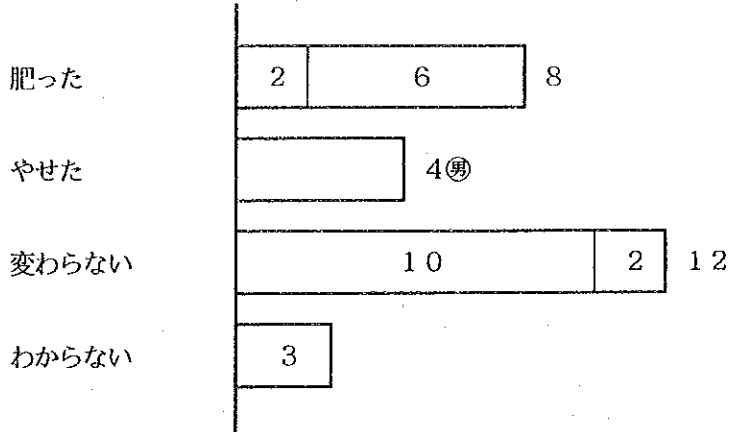
IV. 赴任して以来、病気をしたことがありますか？



V. 赴任して以来、怪我をしたことがありますか？

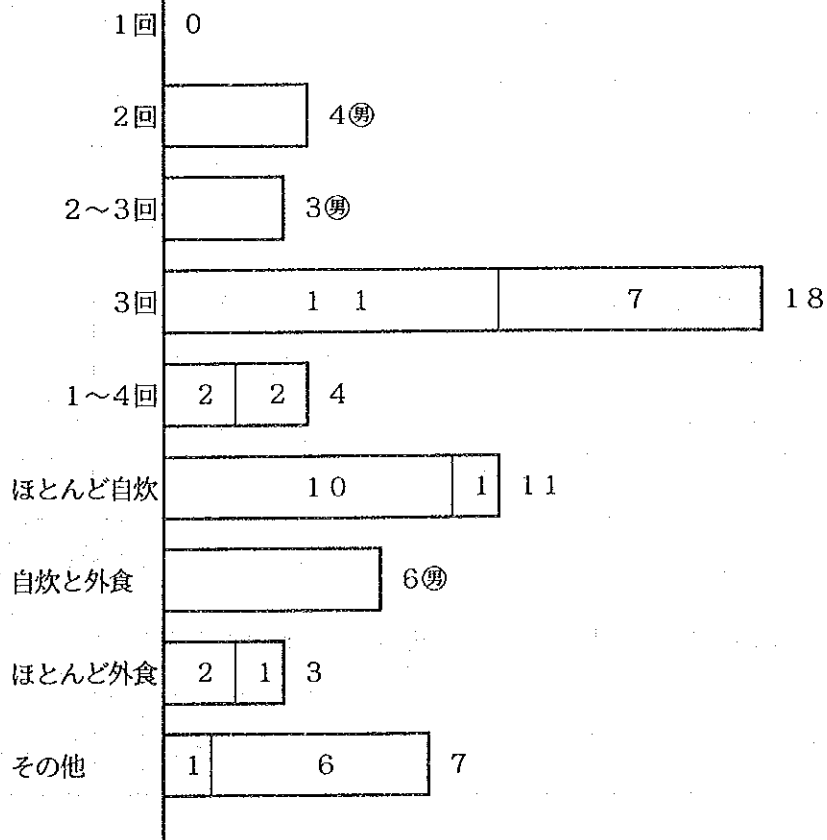


VI. 赴任して以来、肥りましたか？ それとも、やせましたか？

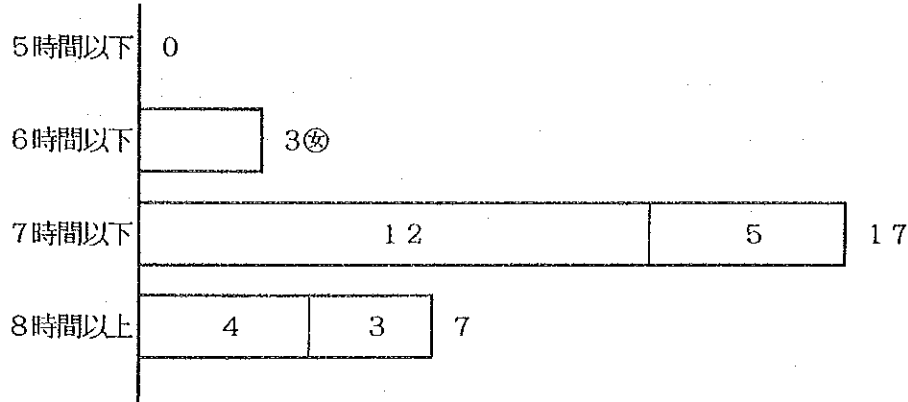


VII. 食事は、どのようにしていますか？

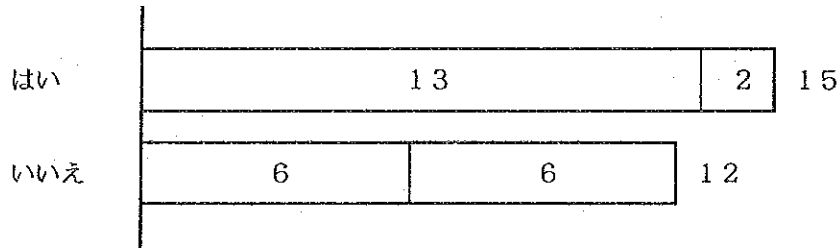
1日の食事回数は？



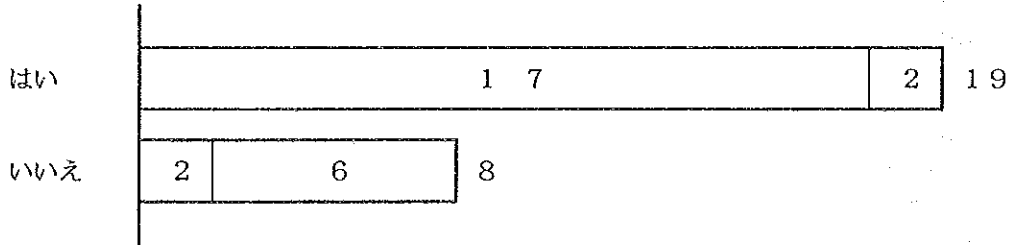
VIII. 睡眠時間は、1日にどれくらいとっていますか？



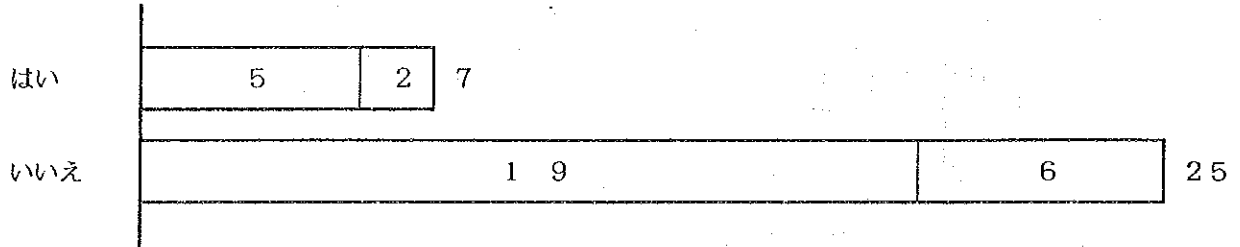
IX. 喫煙しますか？



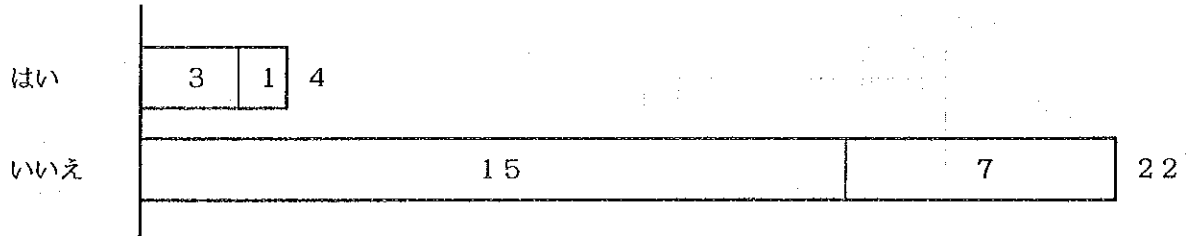
X. 飲酒はしますか？



XI. 派遣前訓練中、通常訓練以外で体力維持増進のために何かをしていましたか？



XII. 派遣前訓練中、体力維持増進のために実施してほしいものがありましたか？

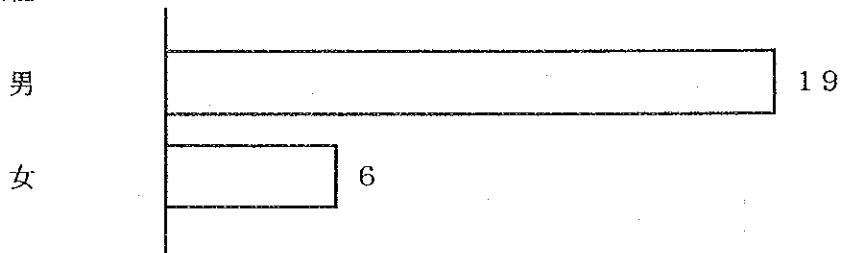


Ⅲ. アンケート調査結果詳細

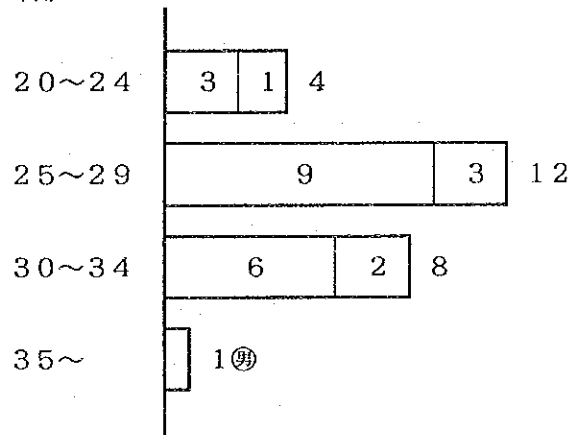
※横棒グラフ中の前数は「男」、後数は「女」を表す

2. シリア

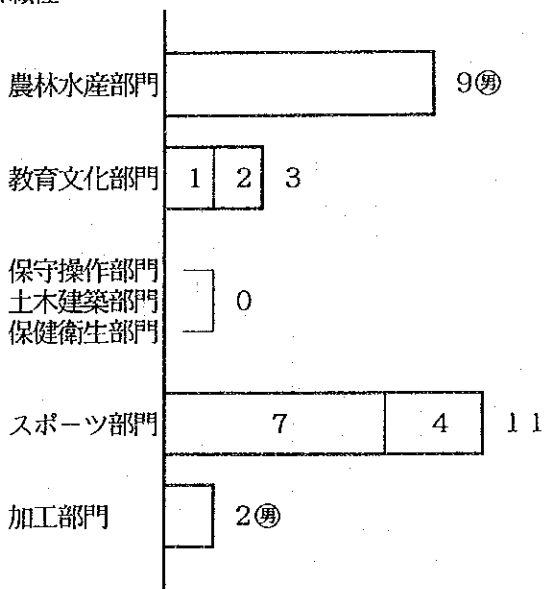
★性



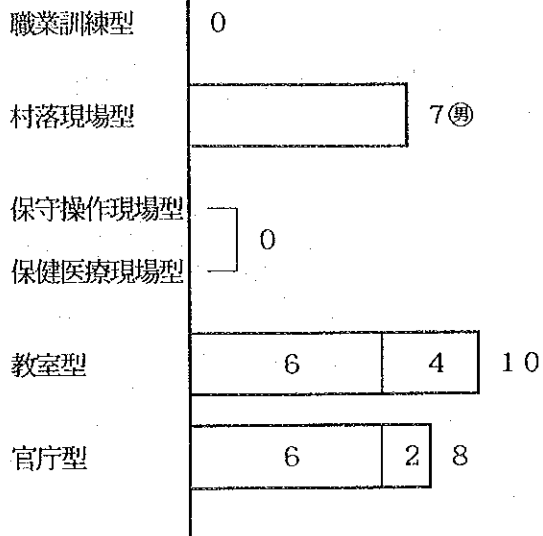
★年齢



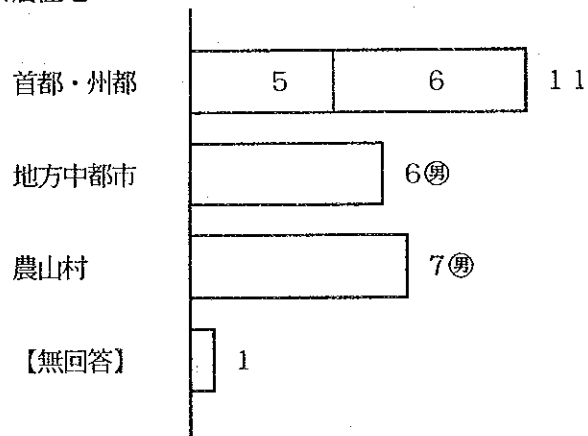
★職種



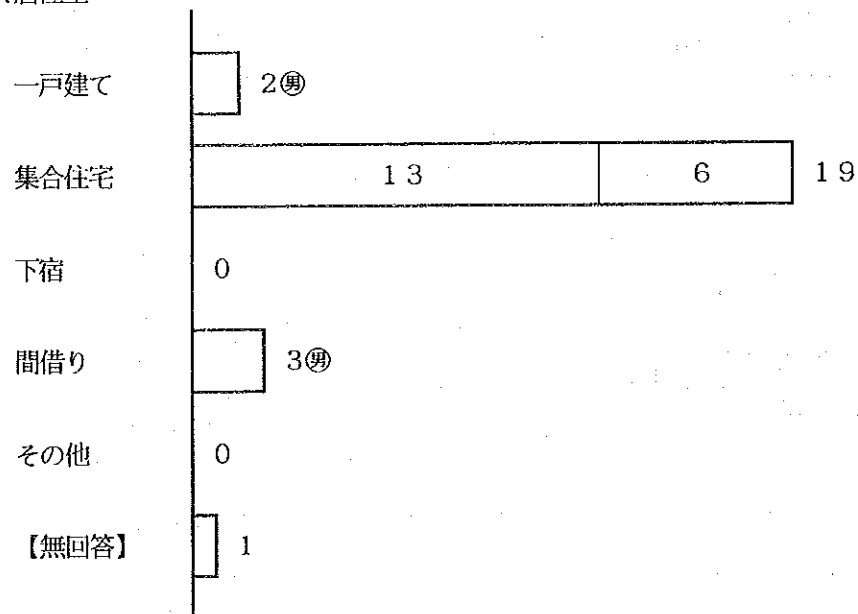
★勤務形態



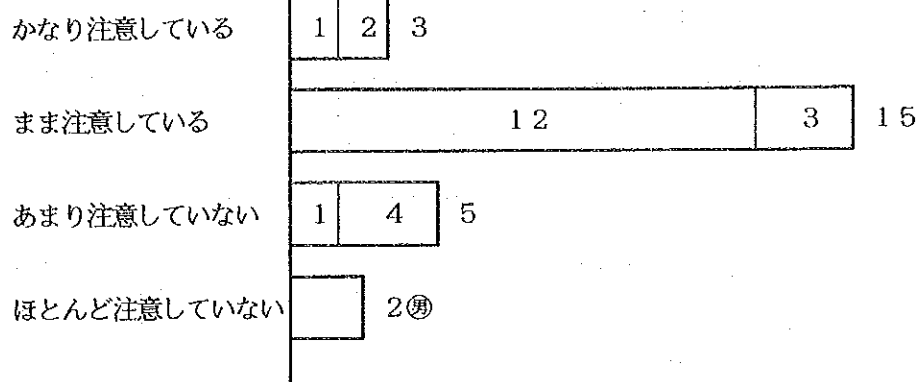
★居住地



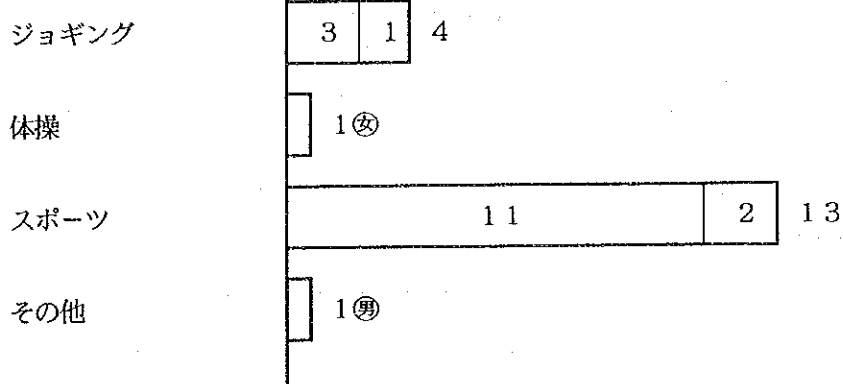
★居住型



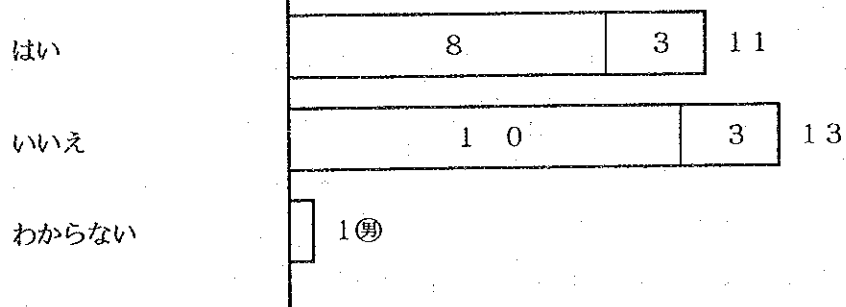
I. あなたは、健康管理に注意を払っていると思いますか？



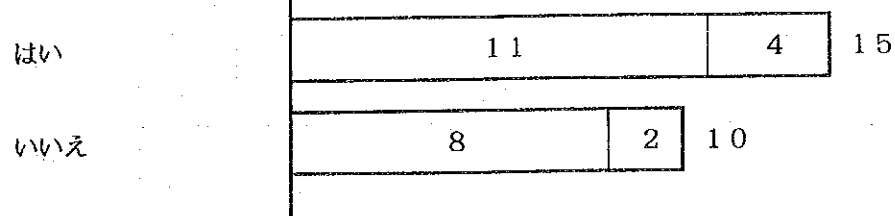
II. 日常生活において、体力維持増進のために何かしていますか？



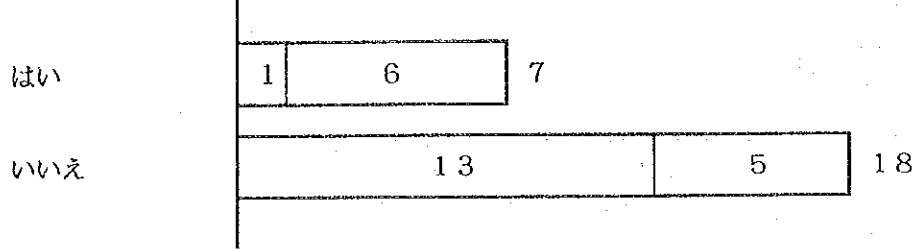
III. 日本にいる時より、体力が落ちたと感じますか？



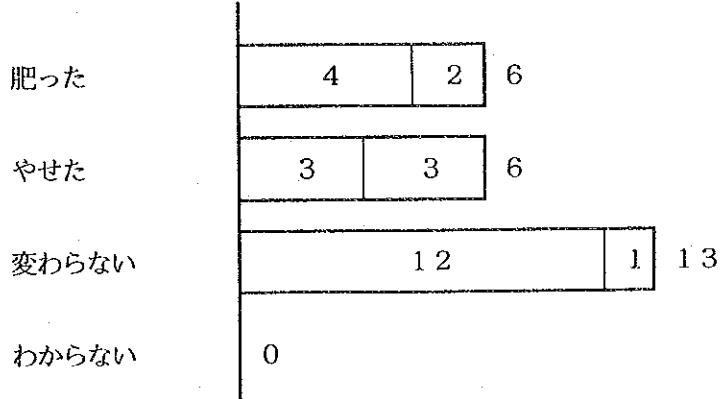
IV. 赴任して以来、病気をしたことがありますか？



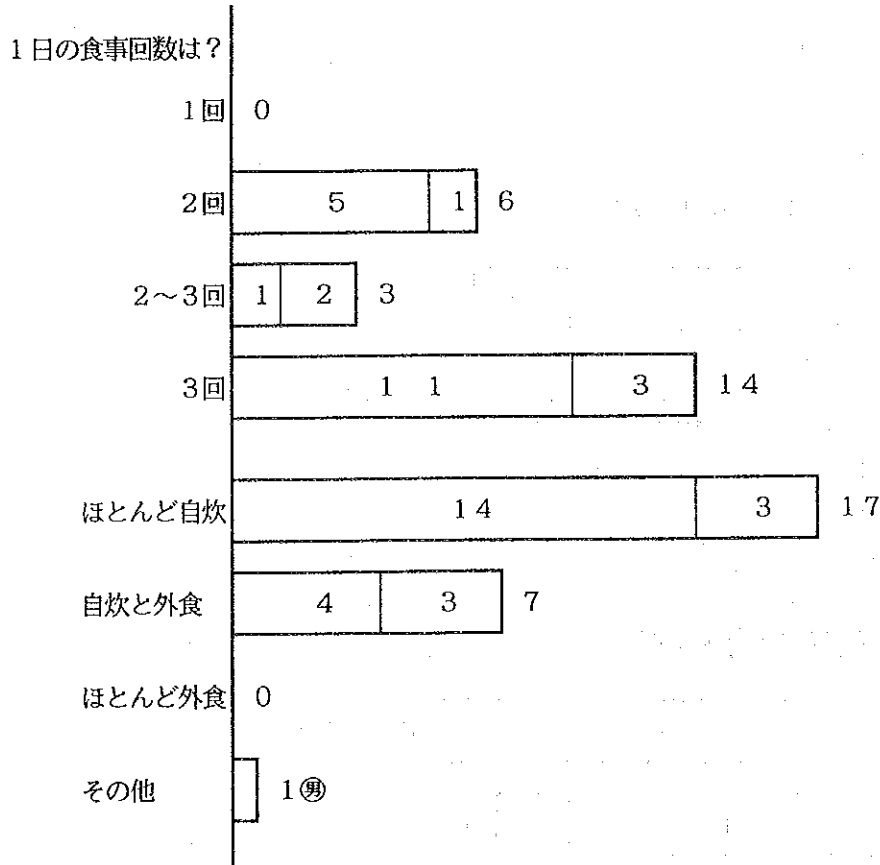
V. 赴任して以来、怪我をしたことがありますか？



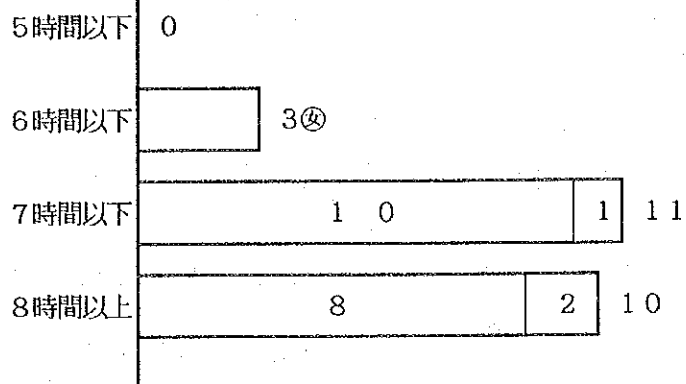
VI. 赴任して以来、肥りましたか？ それとも、やせましたか？



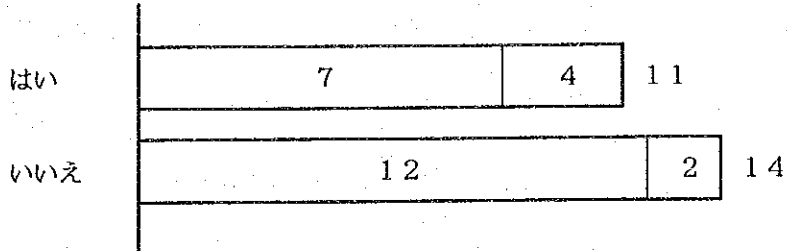
VII. 食事は、どのようにしていますか？



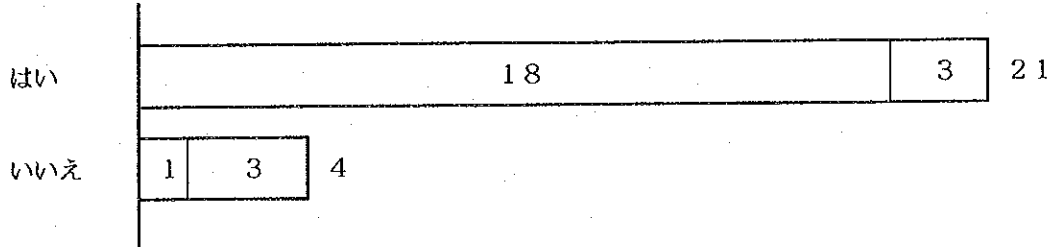
VIII. 睡眠時間は、1日にどれくらいとっていますか？



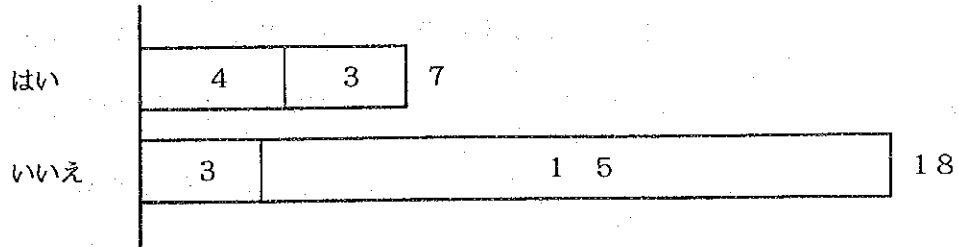
IX. 喫煙しますか？



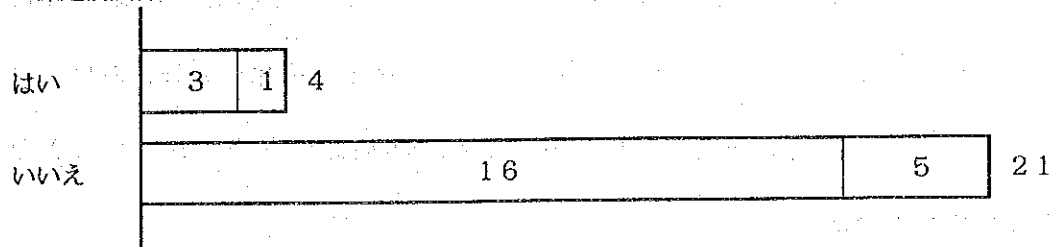
X. 飲酒はしますか？



XI. 派遣前訓練中、通常訓練以外で体力維持増進のために何かをしていましたか？



XII. 派遣前訓練中、体力維持増進のために実施してほしいものがありましたか？



IV. 隊員活動に関する提言

1. 隊員の健康管理・体力維持増進に関すること

2ヶ国共に比較的恵まれた環境にあり、問題とする点をあげることはなかった。全体を詳しく視察するには時間的に余裕もなく、今回の視察をもって判断するには多少の疑念がある。特にシリアにおいては地方の状況が地区によって多少異なりを示している故、今後の隊員報告を加えて判断材料にし、今回の視察を生かせればと考えている。このような点からして、具体的問題を抽出し、解決に結びつける等の報告は困難であり、現地での実態把握と訓練中の体育カリキュラムの検討材料にしたい。

2. スポーツ隊員に関すること

2ヶ国の状況は大きく異なり、ジンバブエでは現在体育隊員は0ではあるが（平成4年度第1次隊より）豊富な学校体育施設・地域体育施設（都市部）それに会員制スポーツ施設を視察したが、いずれの分野にもその施設を生かす人材が不足しており、この分野への進出によって大きな期待が持てるものと実感した。背景としては現在活躍中の音楽隊員がその実例であろう。

又、シリアにおいては学校教育分野について十分な理解を得るに至らなかったが、地域のレクリエーション活動や国の選手養成強化の分野においては各隊員が活発な活動を展開し、特に女性が青少年活動の分野において大きな成果を修めつつある。

しかし、多くの分野において今後継続して指導展開が行われる等の計画が

立てられずに、指導活動が断片的にならざるをえない点は残念ではあるが協力隊としての役割の限度とも考えられ、期間内に何をどれだけ実行し、残せるかを確認し、取り組むかの必要性を感じた。

以上

